

龍神地鶏の保存

【和歌山県田辺市龍神村で 300 年】

龍神地鶏は、本県田辺市龍神村地域固有の希少日本鶏であり、1981年に比較的新しくその存在が確認された遺伝学的・学術的に貴重な地鶏です。しかし、300年以上にわたり特定の地域で少数の個体のみが愛好家により飼養され続けてきたため、近親交配による遺伝的多様性の低下により、**絶滅が危惧**されています。



また、飼養者からは数十年前の個体より体格が小さくなった事、繁殖力が低下した事等の話を聞いています。そのため、早急な保護・増殖及び遺伝子の再調査が求められていました。

(2009年 発表論文より)
そこで当所では平成 24

年度より、この貴重な遺伝資源である龍神地鶏を保護し、恒久的に保存する取り組みを開始しました。

【龍神地鶏の特徴】



<雄の羽装>

一般的に言われる赤笹(野生型)様
頸羽、蓑羽に黒色領域を持つ

<雌の羽装>

非常に特徴的で、背中から腹にかけ、ほぼ全身の羽毛が黒く縁取られた‘覆輪’羽装を持つ



【取り組み】

①現存する龍神地鶏の現況調査

確認できた全飼養者を巡回し、飼養されている全個体に対する形態学的調査、個体識別のための翼帯装着及び遺伝学的検査実施のための採血等を実施しました。この調査により和歌山県の4件(当所含む)、奈良県の1件の計5件の飼養者による68羽の龍神地鶏が確認されたのみでした。今回の調査により作成した龍神地鶏個体管理台帳を元に、個体管理を行っています。

②遺伝的再調査

広島大学日本鶏資源開発プロジェクト研究センター(JAB)において、今回採材した血液から遺伝子の解析(マイクロサテライトDNA多型解析)を実施しました。この結果を元に策定された交配計画に基づき、集中的に個体確保及び系統造成を実施しています(共同研究)。

③危険分散

鶏インフルエンザ等伝染性疾病から龍神地鶏を守るための危険分散のための協力体制を広島大学と確立することが出来ました。

④龍神地鶏の活性にむけて

貴重な龍神地鶏の純粋種を確実に保存しようと、平成25年3月13日「龍神地鶏保存協議会」を設立いたしました。今後、新規の龍神地鶏飼養者となられる方は、この協議会の意義を十分理解いただき協議会入会と、規約の遵守をお願いします。

【結果】

平成26年6月現在で個体数を257羽まで増やす事ができました。しかし、これまでの集



中交配では、孵化率が平均53.55%と低く、さらに孵化する個体の7割が雄であったことから、今後龍神地鶏保護のため必要とされる**雌個体数の確保**が重要課題である事がわかりました。

【今後の方針】

純粋龍神地鶏の保護のため系統を3系統(和歌山系、奈良系、新内種系)にしぼった系統造成及び個体数の確保を継続し、優良個体の選抜を実施していきます。

【最後に】

和歌山県固有の龍神地鶏を単に保存するだけではいつか絶えてしまう可能性が懸念されます。そこで、龍神地鶏の特徴を十分活かした活用法を探索し、何らかの形で和歌山県民の皆様方に貢献する事が出来た時、初めて龍神地鶏の恒久的な保存に繋がると考えています。また、それが当所の研究の終着点であると考えます。